

会議録

概要

会議名	第4回豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会 第4回豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策庁内検討委員会
日時	2025年1月22日（水）13：30～16：30
場所	豊岡市役所2階 大会議室
出席者	委員：13人（敬称略） 井垣 真紀、今井 秀司、木谷 妙子、岸田 尚子、久木田 里奈、佐藤 春華、高橋 正透、瀧下 真理子、中田 修平、三宅 清子、宮下 隆司、姚 瑶、和田 歩 庁内委員：9人 アドバイザー：田村太郎氏、大崎麻子氏
事務局	くらし創造部部長 谷岡慎一 多様性推進・ジェンダーギャップ対策課 木内純子、原田紀代美、岡本加奈子、得田雅人

議事

1 委員長あいさつ

2 田村アドバイザー、大崎アドバイザーあいさつ

3 第3回の振り返り

- ・第3回の「多様性に関する事業の課題と必要な取組み」と「用語の定義」について振り返り、事務局から報告

4 情報提供

「多様性推進方針に入れるべき視点と他市等の事例紹介」 田村アドバイザー

- ・ちがいに配慮のあるコミュニケーションについて、コミュニケーションの「ズレ」を埋めるには、対象者の参画が必要。「ストック情報」と「フロー情報」のちがいに着目すること。「ちがい」に対する捉え方・考え方そのものを見直すこと。相手が「不快」と感じるコミュニケーションについて相互に知る機会を設けることが重要。と指摘された。
- ・埼玉県「心のバリアフリーハンドブック」、虹色ダイバーシティ「指さし状況説明シート」、VoiceTra、自治体国際化協会「災害時多言語表示シート」を紹介。
- ・欧州における相互理解を促す取り組みを紹介。

「ジェンダー平等推進の最新動向」 大崎アドバイザー

- ・地方創生 2.0 の基本的な考え方、第6次男女共同参画基本計画、包括的な性に関する教育の動向等について紹介。
- ・富山県 NPO 法人ハッピーウーマンの事例を紹介。

5 協議事項

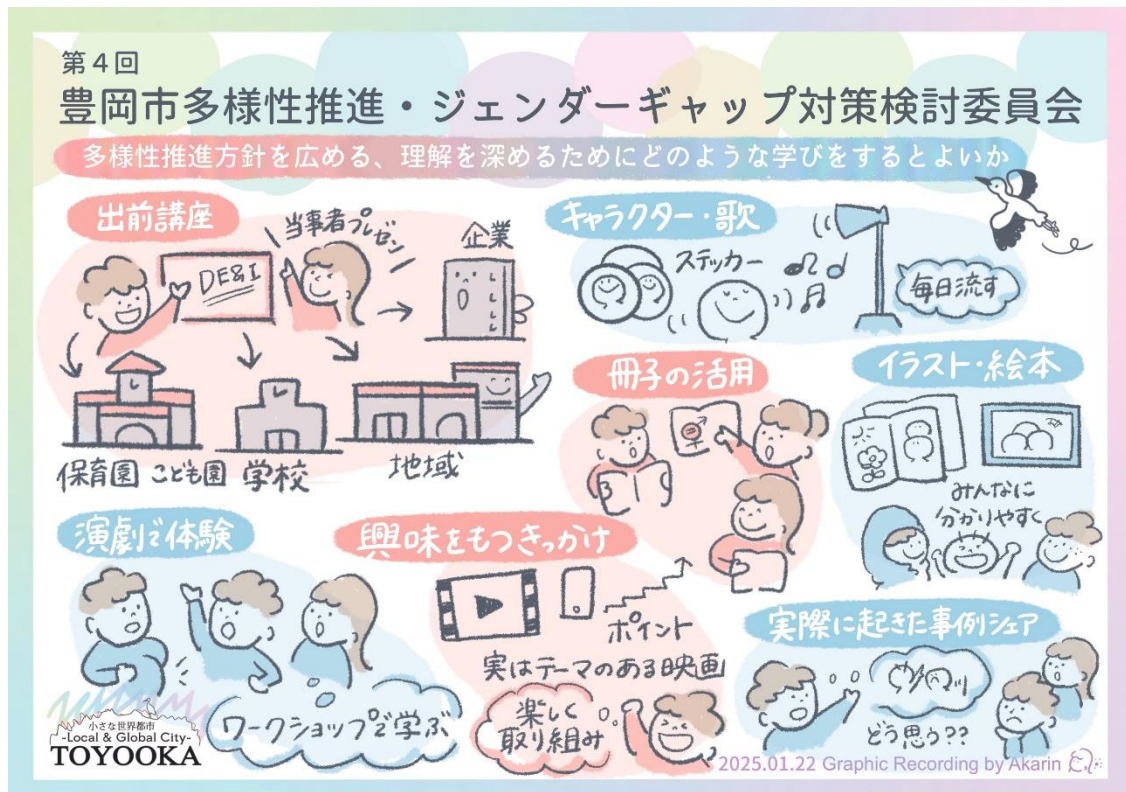
(1) 「(仮称) 多様性推進方針案について」

- ・委員の意見をグラフィックレコーディングでまとめた。



(2) 「多様性推進方針を広める、理解を深めるためにどのような学びをするとよいか」

- ・委員の意見をグラフィックレコーディングでまとめた。



6 委員の行動宣言

- ・井垣委員「常に自分の『あたりまえ』を疑うこと」
- ・今井委員「多様な働き方推進宣言!!」
- ・木谷委員「多様なちがいを理解し、個人を尊重する!」
- ・岸田委員「ひととひとをつなぐつながる居場所や機会をつくる!“たのしい”をキーワードにして」
- ・久木田委員「私は誰にでも偏見なく優しい気持ちとナイスな態度で接します!」
- ・佐藤委員「話しやすい場をつくる」
- ・高橋委員「それぞれのちがいを認め、公正公平かつ寛容な『人づくり』に欠かせないのが『教育』です。その人づくりに家庭と学校と地域がどう繋がればいいのか、足元の小さなことから関わっていきます」
- ・瀧下委員「多様性・ジェンダーの気づきに『はて!?!』の声を上げていきたい」
- ・中田委員「『学ぶ』『教える』『学び続ける』」
- ・三宅委員「固定観念をなくすこと 言語、文化、習慣の違いや個性を受け止めること コミュニケーションの重要性が大事なかなと思っています」
- ・宮下委員「1年間しっかり勉強しました!!城崎町へ戻り住民に伝えます!!」
- ・姚瑤委員「誰ひとり疎外されない、取り残されない 多様性あふれる世界をつくる」
- ・和田委員「男女が平等に活躍できるように、自ら積極的に行動する」

庁内委員

- ・袖長委員「固定観念にとらわれた発言に気をつける（意識する）」
- ・由利委員「無意識から意識に行動を変えて行く」
- ・植田委員「キャリアデザイン事業をすすめる
 - ・自律的なキャリア支援
 - ・働きやすく、働きがいのある職場へ
 - ・男女の機会格差、性別分担意識を解消」
- ・稲田委員「ちがいを認める⇒会話が大切⇒まずはあいさつから」
- ・西畑委員「『まだ誰か取り残されているのでは』という視点を持ち続ける」
- ・道下委員「多様なちがいを受け入れる大切さを身近なところから広めていく!」
- ・岩崎委員「・多様性の尊重を包摂性のある教育の推進
 - ・『豊かな心』の育成 第5次とよおか教育プラン」
- ・河本委員「それぞれの『ちがい』に気づき、目をそむけず多様性を受け入れます」

7 講評

田村アドバイザー

- ・方針を策定するのがゴールではない。新たなプロセスに進んでいくことが重要。
- ・方針を広めていくために新しい課題が出てくるので、方針を見直すこともあるだろう。
- ・「目に見える」、「手に取れる」、「名前がついている」ことが広めていく上で重要。
例えば、日めくりカレンダーとか

- ・「寛容な社会」は難しいこともあるので、その時は「不寛容でない社会」を目指してほしい。

大崎アドバイザー

- ・継続的に、学習・対話をして、3歩進んで2歩さがるプロセスを踏んでほしい。
- ・委員のみなさんの発表を聴いて、1年間を通して、学習・意見を交わした経験をどうにか周りに伝えたいという意思が感じられた。
- ・「はて!？」と言える人でありたいし、「はて!？」と言われる人でもありたい。